



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：カンディール新首相任命に対する各界の反応 (25日付エジプト各紙ほか)

2012年7月24日、ムルシー大統領は、ガンズーリー内閣で水資源・灌漑相を務めたヒシャーム・カンディールを首班に指名し、同人に対し新内閣の組閣を指示した。25日付エジプト各紙は、カンディール首相任命に関する各界の反応を報じた。概要は以下のとおり。

なお、各紙とも、今次人事を予想外のものではあったと捉え、一面のヘッドラインは「大勢の予想を覆す任命」「衝撃」「ムルシーのサプライズ」といった書き振りが目立つものであった。

## 1. イスラム主義勢力

### (1) イサーム・エリヤーン自由公正党党首代理【肯定的】(ツイッターに掲載)

カンディール首相の成功と活躍をお祈りする。同氏の任命は、同氏以外の人物を大統領に推薦したい者たちを驚かせた。今後の課題は、移行期の難題に対処できる有能でバランスのとれた新内閣を組閣することである。

### (2) ハムディー・ハサン・ムスリム同胞団幹部【肯定的】(フェイスブックに掲載)

カンディール首相は、テクノクラートであり尊敬に値する人物である。同氏の成功を期待している。

### (3) ナーディル・バッカール・ヌール党公式報道官【肯定的】(フェイスブックに掲載)

首相の選定は、ムルシー大統領がそれにつき任期末に国民から評価を受けるものである以上、大統領に選定の絶対的権限がある。カンディール氏の任命は、中年層であること、前職より能力が証明済みであること、政党・政治勢力に所属していないことの3点において、適切な決定である。

### (4) ターレク・エルマラト・ワサト党政治局員【肯定的】

選挙で選ばれた初の大統領が任命した首相であることから、カンディール氏の首相任命に関し楽観的である。年若い同氏の任命は、青年層への良いメッセージともなる。

### (5) サフワト・アブドゥルガニー建設・開発党政治局長(ガマーア・イスラミーヤの政党)【否定的】

ムルシー大統領は、経済を専門とするテクノクラートを首相に選ぶと考えていた。ガンズーリー内閣の閣僚ではなく、実力のある独立系の人物の選定を望んでいた。

## 2. 世俗・リベラル勢力

### (1) アイマン・ヌール新ガド党党首【否定的】(ツイッターに掲載)

カンディール水資源・灌漑相が首相に任命されるとは、予想しておらず驚きである。

### (2) リファト・エルサイド・タガンマア党党首【否定的】

ムルシー大統領は、能力や経験ではなく、思想信条を基準としてムスリム同胞団に近いカンディール氏を首相に任命した。同氏の最大の特徴は、灌漑の専門家であることだが、これは現在エジプトが直面している諸問題の中で優先事項とは言えない。

### (3) ホサーム・イーサー憲法党(結成中)創始者【否定的】

灌漑のエンジニアが首相に任命されるとは史上初であり、驚いている。現在のエジプトが必要とするのは、政治家でありテクノクラートではない。

(4) アフマド・ハイリー自由エジプト人党報道官【否定的】

現在のエジプトは、経済分野で経験のある人物を必要としているにも関わらず、カンディール氏には経済の経験がなく、政治的経験も知られていない。新内閣の今後は、閣僚の顔ぶれにかかっている。

(5) ホサーム・エルホーリー・ワフド党幹部【中立的】

エジプトは、これまでに大きな経済的痛手を被っており、経済面での国の安定を実現できる人物を必要としている。新内閣の目標が明確に設定され、新首相が投資家と労働者の関係を法に沿って明確化することを希望している。

(6) アブドゥルガッファール社会主義人民連合党幹部【中立的】

カンディール氏の首相任命は驚きだが、カンディール内閣の国政運営能力を測るには、閣僚の顔ぶれが決まるのを待たねばならない。

### 3. 青年勢力

(1) アフマド・マーヘル「4月6日運動」コーディネーター【否定的】

カンディール氏の首相任命は、衝突を招き、驚きと不信感を引き起こすものである。ムルシー大統領は、政治・経済に経験のある独立系の人物を首相に選ぶとした約束を履行せず、政治勢力が推薦した人物を無視した。

(2) シャーディー・エルガザーリー・ハルブ国民戦線メンバー【否定的】

国の現状に鑑みれば、カンディール氏の首相任命は奇妙である。政治的実力があり、危機的現状への対応において、ムルシー大統領をサポートできる人物が選ばれるべきであった。

(3) ムアーウ・アブドゥルカリーム旧革命青年連盟執行部メンバー（中東調査会注：同連盟は既に解散）【中立的】

首相ポストに経済的経験のある人物が必要とされていたのは確かであるが、現時点でカンディール首相を評価することはできない。前内閣の閣僚であった同氏には、新内閣を待ち受ける問題の多さを良く知っているという利点はあるであろう。

(4) ジョージ・イツハク「キファーヤ」運動指導者【否定的】

カンディール氏は、首相に必要とされる経験も、水資源・灌漑相としての実績もないにも関わらず、いかにして首相になるつもりか。同氏の思想傾向がムルシー大統領もしくはムスリム同胞団に近いために選ばれたと思われる。

### 4. アナリスト

(1) ナビル・アブドゥルファッターハ・アラハーム政治戦略研究所所長【否定的】

カンディール氏の首相任命は、首相と内閣を大統領の事務局としての役割に限定する伝統的な政治文化がまだ続いていることを示している。また、同氏は、テクノクラートという条件しか満たしておらず、今後の国政を担うに必要な政界や国民との繋がりを欠いている。旧政権時代と異なるのは、若年層からの採用という点のみである。

(2) エマード・ガード政治戦略研究所研究員（エジプト社会民主党党员）【否定的】

ムルシー大統領は、政治的経験を欠き、思想的に自分に近いだけの人物を選んだ。これにより、首相は決定権者ではなく、決定の執行者に過ぎない存在となり、ムスリム

同胞団最高指導部が実権を握ることになろう。

#### 5. ハイラト・シャーテル氏との関係

ムスリム同胞団（MB）幹部の一人は、シュルーク紙に対し、MB 及び自由公正党（FJP）がカンディール氏の首相任命を事前に承知しておらず、本決定は、ムルシー大統領の決定であり、ハイラト・シャーテル MB 第一副指導者と遠く離れたところで行われたと述べた。MB に近い別の情報筋も、本決定により、ムルシー大統領が MB 及び FJP からの独立・差別化を図ったとみており、今後大統領府の中でムルシー派とシャーテル派の対立が顕在化する可能性を指摘した。